



土木史フォーラム

No.16 2000.12.

Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

目次

土木史ニュース	平成12年度 土木学会選奨土木遺産		1
フォーラム	日蘭交流400周年と日本土木の近代化	島崎 武雄	2
地域のニュース	大阪府立狭山池博物館が来春オープン	有井 宏子	3
	「総合的学習の時間」が始まる	高安 礼士	3
海外土木史	若手エンジニアのためのデザインコンペ ～アイアンブリッジ溪谷を舞台にして～	橋本 光行	4
関連団体ニュース	中部産業遺産研究会の歴史、その研究成果と展望	石田 正治	5
文化財ニュース	重要文化財・登録文化財となった土木構造物一覧		5
学会の動き	第21回土木史研究発表会の開催と講演用論文及び討議欄の募集		6
行事案内	第5回「土木の文化財を考える講演と討論の会」		6
	土木技術者と歴史感覚 Antoine Picon 教授招待記念シンポジウム		7
土木史関係図書	『開削決水の道を講ぜん 幕末の治水家船橋随庵』他		8

土木史ニュース

平成12年度 土木学会選奨土木遺産

平成12年度選奨土木遺産は下記の通り10の施設に決定されました。銘板の伝達式は土木の日関連事業の中で支部ごとに行われました。

No	銘板の名称	授賞理由	支部	所在地	建設年
1	小樽港北防波堤	廣井勇による小樽築港の要となった施設（コンクリートを用いた日本初の本格的な防波堤）	北海道	北海道	明治41年
2	野蒜築港関連事業 （野蒜築港跡地、石井閘門、北上運河、東名運河、貞山運河）	オランダ技師の提言を受けて明治政府が実施した最初の直轄港湾事業（現存最古の洋式閘門とわが国を代表する運河群）	東北	宮城県	明治13年（石井閘門、北上運河） 明治17年（野蒜築港、東名運河） 明治23年（貞山運河）
3	帝都を飾るツイン・ゲイト （永代橋、清洲橋）	近代橋梁技術の粋を集めて造られた隅田川震災復興橋梁群の中核的存在（日本初の100m超スパンの橋と美しさを追求した特殊な吊橋）	関東	東京都	大正15年（永代橋） 昭和3年（清洲橋）
4	猿島要塞	初期の代表的な軍事要塞（環東京湾要塞で観音崎に次いで造られ、明治10年代の煉瓦構造の特徴が良く出た保存状態の良い要塞）	関東	神奈川県	明治17年
5	木曽川ケレップ水制群	デ・レーケの木曽三川改修事業の中でも重要な木曽川付替えを技術的に可能にした水制工（戦前で最大規模の水制群）	中部	愛知県	明治44年
6	阪急大宮駅と大宮・西院間の地下線路	阪急・京都線の大宮駅～西院駅間の地下線路区間（東京の銀座線に次いで全国で2番目、関西最初の地下路線）	関西	京都府	昭和6年
7	大川・中之島の橋梁群 （桜宮橋、天満橋、天神橋、大江橋、淀屋橋）	第一次大阪都市計画事業によって大川・中之島一帯に架けられた5橋（当時最大スパンの鋼アーチ、戦前の三大カンティレバー橋の一つ、景観に配慮した三連アーチ、戦前では珍しいデザインの一般公募の優勝作品）	関西	大阪府	昭和5年（桜宮橋） 昭和9年（天神橋） 昭和10年（天満橋、大江橋、淀屋橋）
8	京橋	鋼管柱橋脚を有する唯一かつ最古級の大型鋼桁橋（明治・大正期の鋼桁の雰囲気とこれほど残した橋は他にない）	中国	岡山県	大正6年
9	大谷川砂防堰堤	四国唯一の明治期の砂防堰堤（三段で緩やかな曲線を描くデ・レーケが関与した大規模砂防堰堤）	四国	徳島県	明治19年
10	河内（貯水池）堰堤及び南河内橋	官営八幡製鐵所の工業用水関連施設（戦前で最も高い貯水池ダムと現存唯一のレンズトラス橋）	九州	福岡県	昭和2年

日蘭交流400周年と日本土木の近代化



島崎 武雄
(株)地域開発研究所)

1600年、オランダ船リーフデ号が九州の豊後（大分県）に漂着し、それより日蘭の交流が始まった。以来、2000年はちょうど400年目になるので、本年、日蘭両国で交流400周年の各種行事がはなばなしく行われている。日蘭交流というと、これまでは医学や芸術の分野に関心が注がれていた。しかし、今回は土木の分野における交流もようやく注目されるようになり、土木に関わる幾つかの取り組みが行われ、4月には大阪でデ・レーケ記念シンポジウムが開催された。また、5月には井口昌平東大名誉教授（デレーケ研究会会長）が明治期のオランダ水工技師の業績に関する研究によりオランダ国王より勲爵士（Ridder、英語ではKnightに当たる）の爵位を授けられた。

ところで、明治初期におけるデ・レーケらオランダ水工技師団の河川・港湾事業の分野の業績は広く知られ、彼等が日本に西欧近代水工技術をもたらせたものと理解されている。オランダ技師は、来日すると直ちに河川に量水標を設置し、水位観測を開始した。同時に、流速観測を行い、バザンの流速公式によって流速を算定し、流速×河積を以て流量を算定し、河道計画を定めた。ここに日本近代の河川計画が初めて作成されることとなった。しかし、実は、それ以前に西欧近代水工技術が日本に導入されていたのである。次に、その史実を紹介したい。

江戸時代、日本では水田耕作が農業の中心であり、農業用水の灌漑がその基礎をなすものとして重要視されていたことは言うまでもない。そのため、数々の農業用水事業が行われた。そして、灌漑用水の取水は「見試し（みためし）」によって行われた。見試しというのは、用水施設を作る場合、何年間か施設を使用し、その経験によって施設の適否を定めたものである。そして、取水・分水・配水は、流量ではなく、分割比で行われた。河川流量の何割を取水するか、取水門樋をどれくらいの高さまで上げて取水するといった方法が用いられていたのだ。

る。これらは、具体的には水位の操作によって実施されていた。これに対し、オランダ技師は流速を測定し、流量の概念を持ち込んだのである。ここから日本の近代河川計画が始まった。

土木学会図書館に『治水摘要 首巻』、『治水学 主河篇』、『堤防略解』、『治水要目』という4冊の書籍がある。前2書は1871(明治4)年刊、前3書は熱海貞爾(訳)としてある。これらはいずれも河川改修の方法や堤防築造方法を示している。とくに注目されるのは、河川改修に当たって流速測定の必要性を論じ、流速×河積を以て流量とし、流量算定法を示し、それによる河川改修を提示していることである。すなわち、ここで近代河川計画の方法が紹介されているのである。オランダ技師団の嚆矢としてドールンが来日したのは1872(明治5)年である。したがって、オランダ技師団来日以前に近代河川計画の方法が紹介されていることになる。

一方、上述4書の内容を見ると、これらはオランダのシュトルム・ボイシンの『治水書』(Storm Buysing, "WATERBOUWKUNDE", Derde druk, 1864)の抄訳であることが分かる。シュトルム・ボイシンとは、オランダの水利技術者である。この書が幕末から明治初年の間に何者かにより日本に持ち込まれ、オランダ通詞：熱海貞爾によって翻訳されたわけである。

ところが、さらに驚くべきことには、これより前、同じくオランダの水利技術者：バウドによって1836年に刊行された『治水書』(F.Baud, "WATERBOUWKUNDE", 1836)が幕末に日本に輸入され、それが静岡県立図書館に現存していることである(土木史フォーラム11号参照)。

なお、シュトルム・ボイシンの『治水書』訳者の熱海貞爾は、明治維新後、内務省に勤務し、オランダ技師団の通訳として活躍した。

地 域 の ニ ュ ー ス

大阪府立狭山池博物館が来春オープン

大阪府は、現在、大阪狭山市に「大阪府立狭山池博物館」を建設中です。

大阪狭山市にある狭山池は、奈良時代の公式記録である『古事記』『日本書紀』にもその名が残る、歴史ある溜池です。農業用溜池であったこの池に治水機能をもたせるため、昭和63年より、池のダム化工事が行われてきました。

工事に際して、埋蔵文化財の発掘調査が実施され、各時代の遺構が次々に姿を現しました。

まず、江戸時代初期に、豊臣秀頼の命を受けて片桐且元が設置した取水遺構（上層東樋）がみつかりました。これは、提体を横断する全長約73mの組合わせ式の木製取水管および取水施設です。同時期の西樋、中樋も出土しました。

中樋では、古墳時代の石棺を数多く使って、石垣状に積んで護岸としていました。石棺は、鎌倉時代に東大寺再建を推進した僧、重源が取水管として再利用したもので、改修工事について記した石碑も出土しています。

上層東樋の直下から、築造当初の取水遺構が見つかりました（下層東樋）。全長は上層東樋とほぼ同じで、取水管の年輪年代測定の結果、狭山池築造が616年頃だと証明されました。

また、遺構を包み込んできた提体の分析から

約1400年におよぶ土木技術の歴史を読み取ることができます。そこで、底長約60m、高さ約15mの提体断面を101個のブロックに分割して移設保存しました。これほど大きな土の構造物に保存処理を施したのは、世界初の試みです。

大阪府立狭山池博物館では、保存処理を終えた提体を中心に、狭山池の出土資料を展示します。また、展示を通じて、治水・灌漑をめぐる日本の土地開発の歴史を紹介します。当館は、来春3月28日に開館する予定です。

（大阪府土木部 有井 宏子）



建設中の狭山池博物館

総合的学習の時間」が始まる

今学校は「総合的学習の時間」への対応に忙しい。小・中学校では2002年（平成14年度）、高等学校では2003年から新しい教育課程が施行される。これまでの各教科の学習のほかに「総合的学習の時間」を設定し、「生きる力を育む」教育が試みられようとしている。同時に学校週五日制も平成14年度から始まることとなっている。

もともと「総合的学習の時間」は、これまでの細分化された教科学習活動に対する反省として提案されたものである。15期中央教育審議会の平成8年度答申で、「ゆとり」の中で自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とする「一人一人の個性を育む教育」がいわれ、横断的・総合的な指導を推進するために「総合的な学習の時間」が設けられたのである。「生きる力」や「個性豊か」で「創造性に富む」人格を育成するための方法として提案されたのである。

具体的な展開としては、「国際理解、情報、福祉・健康、などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うこと」とされており、経過措置として総合的な学習の時間への取り組みが既に始まっている。

各県では、研究指定校を定めモデル的な事業も行われている。小中学校では、学校や地域の特色を生かした学習が計画され、土木遺産の多い地方では郷土史として、また土木関係の人物を学習していることが報告されている。既にご存じの方も多いと思うが、（財）建設技術センターから土木の絵本シリーズ（全4冊）が全国の小学校等に既に6,000冊以上が配布されている。これらは、児童生徒の頃から土木に関する理解を得ようとする試みである。

千葉県内のこの絵本を利用とする25校の小学校にインタビューの機会を得たが、ほとんどの学校で児童の「調べ学習」の教材として使用しているとのことであった。つまり、総合的学習に活用しようとしたが、地域の学習に結びつけるまでにこなせていないとのことであった。小学校段階では内容の難しさから「土木のプロ」の手助けが必要なのである。ここに、地域や国民に開かれた、地域と連携する「学会」や「大学」運営の試みとして、「総合的学習の時間」での学校との連携が考えられる。その際、地域の歴史や人物の学習に土木遺産や土木史資料の活用が大いに考えられるのではないだろうか。

このような全国での展開例については既に始まっており、次号以降に紹介したい。

（千葉県総合教育センター 高安 礼士）

若手エンジニアのためのデザインコンペ ～ アイアンブリッジ溪谷を舞台にして～

ここ数年、英国では橋梁のデザインコンペが盛んである。これはS. カラトラバ（スペイン）の出現以来、英国内でも構造物のデザインの重要性があらためて認識されてきていることを伺わせるものである。この中から昨年、若手エンジニアの育成を主目的としたユニークな国際デザインコンペが開催されたが、「歴史的建造物とそれが作り出す周辺一体に、新たな建造物を加える際に何を考えて計画すべきか」を考える好例としてここにその概要を紹介する。

1779年に建設されたアイアンブリッジは世界初の鉄橋として、周辺の溪谷と共に世界遺産の一つに登録されていることは有名である（写真-1参照）。アイアンブリッジビジターズトラストは最近、橋の南西部に新しいビジターセンターを建設することを決定した。このビジターセンターは、セバーン川を挟んで主要道路の対岸に位置するため、駐車場からのアプローチ（歩道橋）が必要となる。英国構造学会教育財団（The Institution of Structural Engineers Educational Trust）は、この歩道橋のデザインコンペを、対象を30歳未満のエンジニア（個人または最大3名までのチーム）に限定して行った。

新橋の提案に際しては、その建設位置が既存のアイアンブリッジから400m程度しか離れていないことから、様々な制約条件が課せられている。その一部を紹介すると、

新しい橋が建設される現代の「技術の象徴」として、次の世代へ引継がれていくものであること

既存のアイアンブリッジとそれを取り巻く周

辺の景観を補完する美しさを保つこと

明確な構造美を表現すること

高品質な製造が可能である最適な材料を選択すると共に、その利用方法に関しては革新的な提案をすること

橋の建設にあたっては、生態系への影響等エコロジーを考慮すること

向う200年の寿命を保証する維持管理方法を示すと共に、建設から維持管理費までのコストを算出すること

ライトアップを含めた、橋と周辺の夜景についても検討すること

等、歴史的な建造物を尊重しつつ、「新しい物作り」を行なうことの難しさを表している。なお、匿名の基金から十分に資金があることから、選考にあたってはコストよりもデザインを重視するとのことであった。

最終的には、Buro Happold Consulting社のエンジニアとFoster & Partnersのアーキテクトからなるチームから提案（Lightweight Bridge、写真-2参照）に対して、最優秀賞（John Barrett Prize）が贈られた。デッキはカーボンファイバーのユニットの組合せから成り、円形の孔と木製の格子により、透視感と軽量感を出している。斬新な材料を用いた、非常にスレンダーかつ軽量の構造であることから、景観、コスト、維持管理等の面で高い評価が得られたようである。また25歳未満に対して贈られるDrury Medalは、「カーボンファイバー合成構造の3ヒンジアーチ橋」を提案したPrice & Myers社のエンジニアチームが受賞した。

（NKK 橋本 光行）



写真-1 Iron Bridge



写真-2 Lightweight Bridge（CGによる合成写真）

関連団体ニュース

中部産業遺産研究会の歴史、その研究成果と展望

1. 設立と軌跡

中部産業遺産研究会（中部産遺研と略記）のルーツは、1970年代、技術史を技術教育に取り入れようと活動していた愛知技術教育研究会（愛知技教研と略記）である。愛知技教研の活動が大きな広がりを見せた1984年、「愛知の産業遺跡・遺物調査保存研究会（以下、愛知産遺研と略記）」が愛知技教研を母体として発足した。愛知産遺研は、トヨタ財団の研究助成を得て、足かけ3年にわたり愛知県内の産業遺産の総合的な調査を行った。その成果は『愛知の産業遺跡・遺物に関する調査報告』としてまとめられ、その後の研究活動の礎石となった。また、このような調査は全国的にも初めてのことでありと斯界からは高い評価を得た。その後、会員も増えて、1993年、研究活動範囲を愛知と限定せずに中部圏域に範囲を広げ、愛知産遺研を母体に「中部産業遺産研究会」を新たに設立させ、今日に至っている。

2. 組織と活動

中部産業遺産研究会は、中部地方の産業遺産の調査研究とその保存を目的とした有志の集まりである。産業遺産に関心のある方は誰でも会員になることができ、会社員・大学生・博物館学芸員・高校教員・退職後の余生を楽しむ人など多彩なメンバーで活動している。2000年7月現在、個人会員125名、法人4団体の組織である。

研究会は隔月の日曜日に開いている。研究会には産業遺産の調査報告、産業技術史関係の研

究、海外博物館見学記、文献紹介など様々な産業遺産に関する情報が会員によって持ち寄られて発表、紹介される。その中で調査報告や論文については研究会誌「産業遺産研究」に収録するように努めている。

定例の研究会の他に、シンポジウム「日本の技術史をみる眼」とシンポジウム「中部の電力のあゆみ」という2つのテーマのシンポジウムを毎年開催している。2000年11月で「日本の技術史をみる眼」は18回目、「中部の電力のあゆみ」は8回目となり、それぞれについて講演報告資料集を作成、研究成果の記録保存に努めている。

中部産遺研の最近の大きな成果のひとつは、『ものづくり再発見 - 中部の産業遺産探訪 -』と題する本を(株)アグネ技術センターより発刊したことである。同書は中部圏のものづくりの歴史をテーマに、会員48人が分担して執筆、愛知・岐阜・三重・静岡・長野の中部5県の産業遺産と主要な博物館を紹介している。貴重な数々の写真の他、産業遺産の所在地マップも付けられて、産業遺産探訪の格好のガイドブックにもなっている。

連絡先：中部産業遺産研究会事務局

〒440-0093豊橋市横須賀町元屋敷14-2

石田正治 気付

<http://www.tcp-ip.or.jp/~ishida96/>

E-mail: ishida96@tcp-ip.or.jp

（中部産業遺産研究会 石田 正治）

文化財ニュース

重要文化財・登録文化財となった土木構造物一覧

土木関連重要文化財(平成12年10月答申分)

名称	所在地	建設年代	特徴等
旧横浜船渠株式会社第一号船渠(ドック)	神奈川県横浜市	明治31年	恒川柳作の設計による、近代横浜の社会基盤形成史上重要な土木施設。

土木関連登録有形文化財(平成12年7・10月答申分)

名称	所在地	建設年代	特徴等
喜久水酒造地下貯蔵研究所(旧奥羽本線第一鶴形隧道)	秋田県能代市	明治33年	総長約93m、幅員3.8mの秋田県最初期の煉瓦造隧道。現在、古酒貯蔵庫として活用。
児玉町旧配水塔	埼玉県児玉郡児玉町	昭和6年	RC造外装モルタル塗、高さ17.5mで、頂部をドーム型とする。現在、時報塔。
間瀬堰堤	埼玉県児玉郡児玉町	昭和12年	堤長126m、堤高28m、取水塔付のコンクリート造重力式堰堤。高欄に擬木を用いる。農業施設。
間瀬堰堤管理橋	埼玉県児玉郡児玉町	昭和13年	RC造3連桁橋で、橋脚の下部がアーチ形に割り抜かれる。
浅野川大橋	石川県金沢市	大正11年	橋長55m、幅員17mのRC造3連充腹アーチ橋。市電建設計画の一環で建設。
犀川大橋	石川県金沢市	大正13年	橋長62m、幅員22mの鋼製曲弦ワーレントラス橋。日本橋梁株式会社の設計。
長良川発電所本館	岐阜県美濃市	明治43年	煉瓦造地上2階地下1階建の水力発電所の建屋。当初、L字型平面。
長良川発電所正門	岐阜県美濃市	明治43年	高さ2.4mの門柱の両側に通用門と袖壁を付け、前面に未開きの煉瓦造階段を設ける。
長良川発電所外堀	岐阜県美濃市	明治43年	高さ1.2mで、帯石でかたどられた玉石積壁に、擁壁を有すフランス積煉瓦堀が載る。
近鉄澁川橋梁	京都府京都市	昭和3年	単純トラス橋としてわが国最大スパン約165mを誇る下路式曲弦ブラット分格トラス橋。
一斗依沈下橋	高知県高岡郡窪川町	昭和10年	橋長61m、幅員2.5mのRC造9連桁橋。四万十川流域の沈下橋の内、現存最古のもの。
南大東島西港旧ボイラー小	沖縄県島尻郡南大東村	大正13年頃	南大東島の主要港・西港にあり島の珊瑚石灰岩を乱積にして壁体を築造。

第21回土木史研究発表会」の開催と講演用論文及び討議欄の募集

土木史研究委員会(委員長:佐藤 馨一・北海道大学教授)では、来年度の第21回土木史研究発表会の開催にあたり、下記要領にて講演用論文を募集いたしますので、奮ってご投稿下さい。

なお、非会員の方々の発表も歓迎いたしますので、土木史研究に関心をもたれる方々の積極的な参加を期待します。また、昨年度より開始した、過去の「土木史研究」に掲載された論文についての討議欄も形式を一部変更して設置していますので、こちらへの投稿も受け付けます。

1.主 催: 土木学会(担当:土木史研究委員会)

2.期 日: 2001年6月2日(土)~3日(日)

3.会 場: 金沢大学

4.募集内容:

(1)論文テーマ:自由(時代、対象、範囲等、すべて自由)。

(2)論文頁数:12頁以内(1頁2,550字、9ポイント・25字×51行×2段組)。

(3)使用言語:日本語もしくは英語。

5.応募方法:

(1)講演申込方法:A4判用紙に「第21回土木史研究発表会講演申込」と明記し、題目(副題も可)、発表者名・連名者名・所属、会員種別、連絡先・電話番号、和文要旨(200字程度)、過去の発表経緯、セッション分類(別記参照)を記述して、FAXまたは郵送にて申込み下さい。講演申込受付後、執筆要項等を送ります。

(2)講演申込締切期日:2001年1月29日(月)必着

(3)論文原稿締切期日:2001年3月30日(金)消印有効

(4)論文掲載料:論文原稿提出時にお支払い下さい。

6頁まで:21,000円、8頁まで:28,000円、

10頁まで35,000円、12頁まで48,000円

なお、今回より著者負担でカラー印刷も受け付けます(1頁あたり5万円程度で実費清算)。

(5)セッション分類:プログラム編成上のセッション分類のため、下記に示す講演希望セッションを2段階分類で記入して下さい。なお、該当する分類がない場合は、キーワードを適宜ご記入下さい。

()分類:人物史、技術史、社会・経済史(制度史を含む)、土木史一般(考古、研究方法論等を含む)

()分類:教育、測量、施工法、地域・都市、景観、交通(道路、鉄道等)、河川、海岸・港湾、衛生・上下水道、構造物(橋梁、トンネル、ダム等)、防災、エネルギー、農業(灌漑等)、その他

6.討議欄の募集要項:

(1)討議欄の対象論文:既に「土木史研究」で発表された論文のうち、特定する論文1編。なお、討議欄1回につき一人1編とします。

(2)討議欄の種別:討議の対象となる論文によって、種別を以下のように設けます。

A:自己の過去の研究に関しての新たな知見や訂正を述べるもの

B:他者の論文に関しての質問、意見を述べるもの

(3)討議頁数:2頁以内

(4)討議書式:書式(行数、字数など)は論文書式に準ずるが、以下の点を留意してください。

英文題名、英文著者名、論文要旨は不要(本文は約6~9行目から始める)

討議の対象論文と、討議を行う理由を本文冒頭にて簡単に記すこと

討議欄Bについては討議対象論文の著者(被質問者)の連絡先を合わせて提出すること

(5)掲載の採否:土木史研究編集小委員会で採否を決定いたします。

(6)討議欄での意見回答と発表:討議欄Aについては希望により研究発表会での発表を認めます。討議欄Bについては被質問者に連絡をした上その返答結果をあわせて掲載します。また討議欄Bの発表会での発表は認めません。

(7)討議欄の掲載料:1件7,000円

(8)原稿提出締切期日:2001年1月29日(月)必着

7.送付先および問合せ先:

土木学会土木史研究編集小委員会

(担当職員:丸畑明子)

(〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目無番地、

Tel.03-3355-3559 / FAX.03-5379-0125、

E-Mail: maruhata@jsce.or.jp)

行 事 案 内

第5回「土木の文化財を考える講演と討論の会」

第5回「土木の文化財を考える講演と討論の会」は、以下の通りで開催されます。

講演:

「山岳トンネル四方山はなし」鍛冶茂仁

「日本における高速道路の創生」武部健一

日時:12月9日(土)13:00~16:30

場所:東京大学構内 山上会館

文京区本郷7-3-1 TEL03-5841-2330

参加費:一般1,000円 学生500円

主催:土木の文化財を考える会

問い合わせ先:TEL03-3988-7733(前島郁子)

FAX03-3988-7747

行事案内

土木技術者と歴史感覚～Antoine Picon 教授招待記念シンポジウム～

本シンポジウムは、パリのボンゼシヨセ (Ecole Nationale des Ponts et Chaussees : ENPC)で教鞭をとるAntoine Picon 教授(専門: 土木史・デザイン史)を招聘し、フランス及び日本の土木史教育の現状と将来展望を確認しながら、公共施設整備における歴史的視点の意義と重要性を議論するものです。ピコン氏は、その著作が欧米で高い評価を受け、また1997年にパリで開催された「l'art de l'ingenieur」(エンジニアのアート展:土木史フォーラム12号参照)の総責任者を40代の若さで務めた、気鋭の土木史家です。産業革命から現代までの土木技術とそのデザインを通史として展示することによって、現代のエンジニアの倫理観に対する問い直しを迫ったピコン氏の視座は、単に土木史的観点の重要性を主張するにとどまらず、今後のエンジニアの役割や倫理を議論する上での有効な手がかりを提示しています。公共土木事業が21世紀の国土、都市にどう貢献すべきかという哲学や理念が強く問われている現在、土木エンジニアにとって、歴史的な観点を含む広い視野をもつことが求められています。本シンポジウムは、土木史やデザイン史の研究教育の活性化だけでなく、広く公共施設整備全般の議論に刺激を投じることにも目的としています。教育・研究に携わる方々をはじめ、計画設計等の現場で活躍中のエンジニア諸氏、そしてエンジニアを目指す学生諸君など、多くの方の参加を期待します。

- (1)主催:(社)土木学会 土木史研究委員会、景観・デザイン委員会
- (2)日時:2001年1月9日(火)13:00-17:50
- (3)会場:大成建設株式会社新宿センタービル52F大ホール
- (4)定員:200名程度
- (5)参加費:無料
- (6)プログラム:
 - 司会 小林一郎(土木史研究委員会幹事長/熊本大学)
 - 13:00- 開会挨拶 佐藤馨一(土木史研究委員会委員長/北海道大学)
 - 13:10- NPCにおける土木史教育の現状と課題 Antoine Picon (ENPC)
 - 14:40- 日本における土木史教育の歩み 高橋裕(東京大学名誉教授)
 - 15:25- 新潟大学における土木史教育の実践 大熊孝(新潟大学)
 - 15:55- 休憩
 - 16:10- パネルディスカッション
「土木技術者と歴史感覚」
 - コーディネーター:篠原修(東京大学)
 - パネリスト:Antoine Picon、高橋裕、大熊孝、鈴木博之(東京大学/建築史)
 - 17:40-17:50 閉会挨拶 篠原修(景観・デザイン委員会幹事長)
- (7)参加申込:不要
- (8)問合先:土木学会研究事業課 工藤修裕
(E-mail:kudo@jsce.or.jp / TEL 03-3355-3559)

土木史フォーラム発行協賛費に関するご協力の御願い

読者各位

土木史フォーラムをご愛読頂きありがとうございます。土木史フォーラム小委員会は、「土木史フォーラム」を700部×年3回=2100部を印刷し、読者の皆様に土木史に関する最新情報をお届けしております。これまで編集関係者には委員の交通費、発送作業や情報収集に伴う費用、ならびに学会員以外の執筆者の方々への謝礼もお渡しできない状況で、皆様のご厚意によって発行を続けて参りました。

しかしながら、今後とも内容を充実させ、積極的に情報を収集し、より広い地域からも委員として編集活動に参加して頂くためには、財源が必要となります。そこで土木史フォーラム編集小委員会では、土木史フォーラム発行協賛費という形で、皆様からの御支援を頂くことに致

しました。これは、あくまで賛同頂いた方のご厚意によるもので強制ではありません。募集は下記の通り実施させていただきます。

記

名 目:土木史フォーラム発行協賛費の募集
募集期間:平成13年4月～6月
対象期間:平成13年4月～平成15年3月
(2年間分)
協賛費:2,000円
支払方法:銀行、郵便局振り込み
(口座番号は次号にてお知らせ致します。)

土木史フォーラム小委員長 窪田 陽一
同 幹事長 鈴木 圭

土木史関係図書

開削決水の道を講ぜん 幕末の治水家船橋随庵 著者:高崎哲郎 発行:鹿島出版会 定価:2,000 円 出版年月日:2000 年 7 月 10 日	利根川と江戸川の分派点の幕末の治水を推進した関宿の藩士船橋随庵治水の伝記。河川水利、水運、農業の総合政策としての治水を実践した。船橋の治水流儀は、江戸初期の「伊奈流(関東流)」、享保期の「紀州流」となれば後に「随庵流」と呼ばれた。本書は、幕末の中央政情の混乱を背景に、幕政、藩政の揺れ動く水利政策も詳細に描かれ、政治史としても興味深く読める。
「世界の野外博物館 環境との共生をめざして」 著者:杉本尚次著 発行:学芸出版社 定価:2,800 円 出版年月日:2000 年 3 月 25 日	「野外博物館」の歴史、タイプと世界の事例を紹介する。特に地球環境時代の現在、環境共生への道としての「エコミュージアム」の思想、試みについて多くの紙面を割いて、その多面的なあり方を述べている。有名な「アイアンブリッジ」も、立地する溪谷一体の自然と産業遺跡の調和という観点から保存整備され、英国版エコミュージアムを形成している。
「隅田川の伝説と歴史」 著者:すみだ郷土文化資料館編 発行:東京堂出版 定価:1,600 円 出版年月日:2000 年 6 月 30 日	隅田川は、その周辺に豊富な伝説を有するが、それらが文芸作品や芸能に昇華したという点では、わが国の河川では際立っている。本書では、隅田川流域、東京低地(隅田川の東西北に広がる下町低地)の伝説を検証し、史実の解明を目指している。
「ヨコハマ公園物語 港町の歴史を歩く」 著者:田中祥夫著 発行:中公新書 定価:780 円 出版年月日:2000 年 9 月 25 日	開港後の横浜に、明治から昭和初期にできた山手、横浜、山下 3 公園と三溪園の誕生の経緯を知ることができる。山手公園は、わが国初の洋式公園。R.H.ブランドン原案の横浜公園は、都市防災構想を伴う関東大震災の瓦礫の上に建設された山下公園。いずれもわが国近代都市計画、都市デザインのルーツのひとつである。
「おおいたの石橋」 著者/発行:大分の石橋を研究する会 (Tel:097-543-8069) 定価:1,500円送料込み 出版年月日:2000年4月1日	大分は全国で最も石橋が多い(496基)と言われている。本書は県内の石橋一覧表や分布を、会員の綿密な調査でまとめあげた改訂版。新版を出した平成 3 年以降、石橋の新発見、崩壊、取り壊しが繰り返され、それに対応して会員が訪ね歩いた労作。架設年代順の一覧表に加え、各市町村別の石橋所在地図、設計者と請負人など盛り込む。

編集後記：土木史フォーラムは現在、土木建設に限らず様々な分野で、業界をリードする方々から、学生の皆様まで多くの方々に購読して頂いております。その数は海外在住の方を含め 600 人近くにまで達しました。皆様にはこれまでも土木史フォーラムに暖かい支持を頂いてきましたが、今回協賛金の支援をお願いすることとなりました。このような資金もなく質の高い情報提供をされてきた以前の編集委員諸氏には頭が下がる思いですが、マンネリズムに陥らず、より優れた情報提供をする為には、地方の会員の方にも積極的に会議に参加して頂く、あ

るいはより緻密な取材を実施するなどの努力が必要です。それには経費も欠かせません。以上のような事情をご理解頂ければ幸いです。

土木学会土木史研究委員会監修
土木史フォーラム No.16
発行者 土木史フォーラム小委員会
代表者 窪田 陽一
事務局 埼玉大学工学部 深堀 清隆
〒338-8570 埼玉県浦和市下大久保255
TEL 048-858-9549 / FAX 048-858-7374
Email: fukahori@post.saitama-u.ac.jp
URL: http://www.city.civil.saitama-u.ac.jp/chsce/newsletter.html

CONTENTS

- NEWS		
Admiration of civil engineering heritage by JSCE		1
- FORUM		
The 400th anniversary of relations between Japan and the Netherlands	SHIMAZAKI Takeo	2
- Modernization of civil engineering in Japan -		
- LOCAL NEWS		
The opening of Sayamaike museum in next spring	ARII Hiroko	3
The class of comprehensive learning	TAKAYASU Reiji	3
- OVERSEAS NEWS		
Young engineer's international design competition	HASHIMOTO Mitsuyuki	4
- RELEVANT INSTITUTIONS		
The society for the study of industrial heritages in Chubu region	ISHIDA Masaharu	5
- HERITAGE REGISTRATION LIST		5
- REPORT FROM CHSCE (Committee on Historical Studies in Civil Engineering)		
Call for papers of the 21th conference of CHSCE		6
- WHAT'S ON		
The 5th forum on heritages of civil engineering		6
Symposium on civil engineers and the historical sense		7
- BOOK GUIDE		8